

令和7年度第1回教育課程編成委員会 議事録

日 時：令和7年6月30日(月)11時00分～12時00分

場 所：多摩リハビリテーション学院専門学校 学院ホール 201 教室

教育課程編成委員：林義巳学院長、岩戸徹副学院長兼教務部長、(作業療法学科) 鎌田小百合学科長・中村晃一主任・横濱秀征主任、(理学療法学科) 佐藤譲司学科長・成塚修一主任・西井琢馬副主任、(言語聴覚学科) 木村欣司学科長・西片裕主任、(介護福祉学科) 鈴木健二郎学科長・竹内克主任、黒田英寿事務長(青梅商工会議所常議員)、景山雄介広報課長、師岡静枝情報システム課長、大堀隆二氏(社会福祉法人一石会統括施設長、青梅商工会議所常議員)、鈴木康雄氏(医療法人社団和風会リハビリテーション部長・PT)、人見太一氏(杏林大学)、池田健祐氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科技士長・OT)、赤松栄晃氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション科課長・ST)、浦島秀之氏(一般社団法人国際高齢者支援協会)、委員 21 名

記

1. 報告事項

(1) 各学科からの報告(各学科長)

①令和6年度国家試験合格率,退学率

②令和7年度新学期のクラス状況(在籍者数等)

2. 意見交換(外部委員からご意見・ご提案等)

(1) 個別スペースの確保について(林学院長)

(2) 入試早期エントリーについて(岩戸副学院長兼教務部長)

(3) 各学科の検討事項(各学科長)

3. その他

以上

1. 報告事項

(1) 各学科からの報告(各学科長)

①令和6年度国家試験合格率 86.8%:136 名中 118 名(86.5%),退学率 4.1%:338 名中 14 名(3.6%)

②令和7年度新学期のクラス状況(在籍者数等)OT88,PT121,ST57,CW61,計 327 名(341 名)

【作業療法学科】

①令和6年度国家試験合格率,退学率

令和6年度国家試験合格率…73.8%(42 名中 31 名合格),全国平均 85.8%

令和6年度退学率…8.2%(110 名中 9 名退学:内訳 1 年生 4 名,2 年生 4 名,3 年生 1 名)

②令和7年度新学期のクラス状況(在籍者数等)…計 88 名(内訳 1 年生 31 名,2 年生 25 名,3 年生 32 名)

R6.12 月に OT プロジェクトを発足。 <学業充実プロジェクト><定員充足プロジェクト>の 2 本軸で進める。

<学業充実プロジェクト>では授業内容の見直し(1・2 年…完全座学の縮小,授業内での国試問題確認など,3 年…国試対策における日々課題設定など)にて今後の国試合格率の向上を狙う。また,“長居したくなる教室づくり”として新たに憩いの場(個別ブース,ゲーム,漫画など)を設置。多様な学生がともに学び続ける仲間として認め励まし合える関係作りを環境面(物理的・人的)からサポートし,退学者の減少を図る。

<定員充足プロジェクト>では,法人組織を活かした広報(紹介奨励入試など)をはじめとし,通信制高校との連携強化も図り,長期的な見通しを持ちながら定員充足を目指す。

【理学療法学科】

①令和6年度国家試験合格率,退学率

令和6年度国家試験合格率…97.5%(40 名中 39 名合格),全国平均 89.6%

令和6年度退学率…0.83%(120 名中 1 名退学:内訳 2 年生 1 名)

②令和7年度新学期のクラス状況(在籍者数等)…計 121 名(内訳 1 年生:40 名,2 年生:39 名,3 年生 42 名)

a)1 年生 40 名(留年者 0 名)現時点で特に大きな問題は起きていない。高卒からの現役以外の学生が 6 名(社会人経験 5 名,その他 1 名)。今年度はオリエンテーションを 1 週間(例年 2 コマ程度)行い,高等教育への円滑な接続を行った。カリキュラム・ポリシーである「幅広い知識ならびにコミュニケーション技術を修得するために自発的な講堂ができるよう育成する」ためにバックアップしていく。

b)2 年生 39 名(留年者 0 名)毎年,だらける学年となる。休学者 1 名。理由は学校に登校しようとする身体症状(腹痛など)が出現すること,基本的に人と関わるのが苦手とのこと。カリキュラム・ポリシーである「これまでに修得した知識や社会性をもとに理学療法を実践できる力を育成する」ためにバックアップしていく。

c)3 年生 42 名(留年者 1 名)総合臨床実習,就職活動,国家試験と大きなイベントがある。カリキュラム・ポリシーである「対象者に寄り添い,問題解決に惜しみない力を発揮するための専門知識・社会性を育成する」ためにバックアップする。就職活動年内内定率 90%以上を目標,国家試験合格率は 100%(最低でも 90%以上)を目指す。

③その他:学科目標:令和7年度のテーマ:『俯瞰と創造 2.0』(読み)ふかんとそうぞう 2.0

(変更しない理由)昨年と同様のテーマである。理由は,建学の精神である「地域の医療福祉に貢献する人材の育成」を達成するために教育理念と教育目標の定性目標を掲げている。定性目標を達成するために定量目標として入学者定員充足,退学率 0%,国家試験合格率 100%が挙げられる。昨年度,未達部分や細かい修正のためバージョンアップとしての 2.0 とした。(意味)自分自身や周囲,学生を俯瞰(高い所から見下ろす様。客観視できる)と新しいものを自分で作る(創造)が今後も必要である。また,世の中は Society5.0 のスマート社会(情報を探しに行かなくても勝手に降りてくる社会)に向かっており,様々な情報や価値観の変化がみられる。それらを知とするならば,様々な組

合せや融合から結果を出すことがマネジメントである。我々教員は現状に留まることなく、知をアップデートし学院の魅力となるようなマネジメントならびに学生指導を行う。

【言語聴覚学科】

①令和6年度国家試験合格率,退学率

令和6年度国家試験合格率…86.8%(23名中20名合格),全国72.9%

令和6年度退学率…3.8%(52名中2名退学:内訳1年生1名,2年生1名)

②令和7年度新学期のクラス状況(在籍者数等)…計57名(内訳:1年生33名,2年生24名)

1年生33名(内訳:専門実践教育訓練給付金12名,東京都委託訓練生10名,その他11名)

現在,学校生活にも慣れ始めている時期となり,パーソナリティ把握のための個別面談を実施している。前期では多
方の問題に発展しないよう学生と常に会話が取れる関係性構築,連日学習する科目への自己学習方法の確立を主
軸として関わっていく。後期に入ると,学習成績に差が生じてくるため,学習成績が2SD以上離れている学生にお
いては,パーソナリティに合わせた教育的配慮を行い,自助スキルの向上を改善させる対応を行っていく。

2年生24名(内訳:専門実践教育訓練給付金14名,東京都委託訓練生8名,現役その他2名)

最終学年で重きを置く支援は,国家試験対策となる。例年,本科独自の学力判定模擬試験を4月中旬に行った。本年
度の合格予測判定となった学生の割合が62%となった。昨年度と比較し,国家試験対策は本年度も厳しい状況と
なることが推察される。現在,個別指導を開始し,個々に合わせた勉強法提供,質疑応答,口頭試問を開始している。

<過去5年の学力判定模擬試験結果>2025年度本科模擬試験62.0%,2024年度68.0%(87.6%),2023年度
40.7%(85.3%),2022年度86.7%(85.7%),2021年度82.6%(78.3%)

【介護福祉学科】

①令和6年度国家試験合格率,退学率

令和6年度国試合格率…90.8%(31名中28名合格)全国平均66.7%

(内訳:日本人93.3%(15名中14名合格),留学生87.5%(16名中14名合格)

令和6年度退学率…7.7%(56名中2名退学)

②令和7年度新学期のクラス状況(在籍者数等)…計61名(内訳:1年生37名,2年生24名)

1年生36名。バングラデッシュからの留学生は留学での在留資格更新ができず自主退学となった。1学年36名は
入学後2カ月が経ち不安が多くなることから個別面談を6月16日～7月11日まで実施をしている。

2年生24名。現時点で特に大きな問題なし。進路希望などの個別面談を6月13日まで実施した。

2. 意見交換(外部委員からご意見・ご提案等)

外部委員より

人見委員:貴校の卒業生が医療・福祉の現場でどのような課題に直面し、どのような支援を求めているのかを把握することは、今後の教育内容や卒後支援の充実に向けて、非常に有意義になると考えております。もしすでに収集・分析されているのであれば、今後の施策の検討のため、ご共有頂ければと思います。

←本校卒業生が医療・福祉の現場において直面する課題や求められる支援を把握し、教育内容の充実や卒後支援体制の強化につなげることは、非常に重要であると認識しております。現時点では、卒業生アンケートや就職後のフォローアップ面談等を通じて、現場での課題や支援ニーズについて一定の情報収集を行っておりますが、体系的な分析には至っていない状況です。今後、より継続的かつ組織的にデータを収集・分析し、それを教育課程の見直しや卒後支援の施策に反映できるよう体制整備を検討してまいります。

理学療法学科では、卒業した年の夏から秋に掛けて「フォローアップ研修」を行っております。1年目の苦労などを共有し、キャリア開発の一環で生涯学習(認定や専門理学療法士)についての講義などを行っております。

介護福祉学科では、現場でのOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)が盛んに行われており、多くの学生が働きながら学んでいます。卒業生からは、実習生の受け入れに関する相談やリクルートに関する問い合わせを受けることも多く、現場では先輩職員として指導にあたる場面が増えてくることが予想されます。そのため、ティーチングやコーチングのスキルを習得することが求められています。

鈴木委員:OT学科の就学意欲を高め、退学者の軽減できる取り組み、OT国家試験の合格率向上への取り組み。
作業療法学科→1.報告事項作業療法学科をご参照ください。

池田委員:退学者の減少と国家試験合格率の向上に向けた取り組みに期待しております。

←昨年度は特に作業療法学科において、国家試験の結果および退学率の面で課題が顕在化しました。これを真摯に受け止め、現在、学科内において要因分析を進め、教職員間での情報共有や学生支援体制の見直しを行っております。具体的には、国家試験対策については、今まで10月から実施をしていたものを、今年度は3月より実施しております。また、個別指導体制の強化、学生の学修状況や心理面のフォローアップを含めた早期介入型の支援の構築を進めております。1,2年生の授業でも積極的に国家試験の過去問題を取り入れ、その傾向と対策に早期より着手しております。一方、退学率改善に向けては、学習支援・生活支援を含めた多面的なサポートの充実を図っております。最終学年では、前述した個別指導体制により、心理面を含めたフォローアップをおこなっています。また、1,2年生では学則変更により、原則最終学年まで進級できる体制を整えました。今後も引き続き、学生の定着率向上と国家試験合格率の改善に向けた取り組みを積極的に進め、その成果についても適宜報告しながら、より良い教育環境づくりに努めてまいります。

理学療法学科では、DP,CP,APの見直しを含めたカリキュラムの修正や変更を行い、PDCAサイクルでのチェックを実行していきます。学生の認知および非認知スキルの成長や学生間および教員との信頼、帰属感を高める介入を行ってまいります。

介護福祉学科では、進路変更による退学者が一部見られました。その理由の一つとして、留学生に合わせた授業展開により進捗が遅れ、日本人学生の中には学習意欲を保てなくなったケースもありました。そこで本年度からは、日本語能力に応じたグループ分けによる授業を導入し、日本語教育においては国語の教員免許を持つ非常勤講師を迎えて、読み書きを重点的に指導しています。これにより、国家試験の合格率も維持できるよう取り組んでいます。

赤松委員:他職種やご家族とのコミュニケーションが課題となることがあります。説明する力や対話する力をどのように養っていけばよいか、ご検討いただければと思います。

←医療・福祉の現場においては、他職種やご家族との円滑なコミュニケーションが重要であり、学生の「説明する力」「対話する力」を育成することは、今後ますます求められると認識しております。本校ではこれまでも、グループワークや多職種間を含む事例検討などを通じて対話力の向上を図ってきましたが、より実践的な場面を想定した家族支援に関する模擬面接等の導入も検討し、学生が現場で求められるコミュニケーションスキルを身につけられるよう取り組みを検討します。

理学療法学科では、上記同様非認知スキルの向上含めたカリキュラムにしていきたいと考えております。

介護福祉学科では、多国籍の学生がいる環境の中で、グループワークやレクリエーション演習を取り入れ、積極的に対話を促しています。また、コンセンサスゲームのように合意形成が必要な課題に取り組ませることで、コミュニケーションの重要性を学ばせています。

いただいたご意見を今後の教育課程編成や授業改善に反映させ、教育内容の更なる充実に努めてまいりますので、引き続きご指導ご助言を賜りますようお願いいたします。

学院より

(1) 個別スペースの確保について(林学院長)別紙参照

・林学院長：OT の募集にも関わる事項であるのでご意見いただきたい。現在、個別スペースの確保は OT 学科の在校生からの要望に対応して設置している。現在の社会的な構造としても、通信制の高校に進学する学生は成績不良の学生よりもアイデンティティの確立や自分探しをしている学生が多い。OT 学科の学生について、通信制の高校に通っている学生がターゲットとなってくる。

人見委員：高校訪問を実施した際、高校の教員から OT の職業イメージが介護職という認識であった。大学としても職業体験を主催して、職業理解に繋げた。大学でも数パーセントの学生で対人関係構築が苦手な者がおり、最終学年で実習に苦労して転科する学生がいる。実習現場でも、現在の学生の特性を捉えて対応をしていく必要があるのではないかな。

大堀氏：30 年前は、優秀な学生が多く職員として就職をしてくれていた。介護保険施行後は、多くの職員を採用する必要があり、学生・職員のレベルが落ちてきた。精神面に不安を抱える職員も増えている。家庭内で看護や介護職に従事している家族がいて資格取得をする者が増えている。介護業界は、早期から海外から人材を確保する EPA を取り入れている。賃金面に対しても、介護職は処遇改善で国が動いている。今後も特定技能 1 号で就労する外国人が増えていくが、多摩リハビリテーション学院専門学校とも連携していき就職に繋げていきたい。

林学院長：広い視野をもって見ていきたい。

(2) 入試早期エントリーについて(岩戸副学院長兼教務部長)別紙参照

入試のエントリー制度は、対象者が入学前にどのような準備を行うか、またそれを入学後どのように教育課程に組み込むかを考える必要があり、教育課程編成委員会の検討事項となる。

専門学校の入学生における出願時期は、東京都は東京都専修学校各種学校協会より 6 月 1 日以降としている。近隣の医療系の専門学校では、本校以外は 6 月から登録(エントリー)を開始としている。一方、本校は、多摩地区高等学校進路指導協議会(多摩高進)の委員との相談により、9 月以降となっている。次年度以降の対応について外部委員の意見を伺いたい。

人見委員：偏差値 60 前後の高校訪問を実施した際、一般入試の希望者は減少してきており、年内に実施される総合入試を希望する学生が増加している。保護者としては、以前は浪人という選択肢があったが今は経済な問題で浪人ができないので、年内で進路決めてほしいと意見がある。

黒田委員：年内で進路決めるといった風潮である。昨年度も某大学が推薦入試で学力試験を実施した。文部科学省が高校へアンケート調査をして、現場のニーズに合わせて年内で入試をする大学が増えている。

当校に関しては、入学者に難渋をしている OT 学科でも 30 名の入学者を確保している。早期エントリーを実施した他校でも入学者が 10 名程度の学校もあるのが現状。多摩高進でも、6 月の時点で進路が定まっていない状況でエントリーをさせることに疑問がある。多摩地域の高校では、前途した内容が共有されているが都内の高校では違っており、大学寄りの考えがあるが、早期エントリー者は多くない。

当校としては、体験会に参加してもらい職業理解をしてもらいエントリーをしてほしい。

岩戸副学院長：入学生にアンケート調査をした結果、3 割が早期エントリーを希望するが 7 割は希望しないとあった。今後も検討をしていきたい。

(3) 各学科の検討事項(各学科長)

【作業療法学科】

通信制高校との連携強化に伴い、オンライン授業(対面座学と Zoom 授業の併用、オンデマンド授業の活用など)の積極的な活用を考えたい。対人援助職を目指すうえでの懸念もあるが、展開方法や実技授業での工夫などご意見いただきたい。

鎌田学科長：専門職を学ぶ上で技術・知識・態度の部分で教育は必須であるが、身体面・精神面で通学での就学が難しい学生がいる。学習環境を調整する配慮はおこなっていくが、オンライン授業も今後検討する必要がある。

鈴木委員：技術面以外の授業であれば、OT 学科に限らず他学科でもオンライン授業でも良いのではないかと。質問となるが、座学の時間を短縮するのか。

鎌田学科長：授業時間は 1 コマ 90 分なので、短縮をするのではなく、集中力が続かない学生も居るので、授業内で小テストやグループワークの時間を取り入れて授業方法を工夫する。

鈴木委員：成績不良者の底上げにもなるのであれば良いと思う。

池田委員：現場にも障害を抱えながら就労支援を受けながら働いている職員もいる。個別的には配慮は必要であると考えている。オンラインを導入するなら学科別ではマンパワー的に課題が残るので、学校全体で取り組む必要がある。取り組みとしては良いので、システム作りが必要である。

鎌田学科長：学力補填として、全体として空きコマで補講を実施している、個別としては、放課後に教室に顔を出して学習状況の確認を実施している。

【理学療法学科】

①カリキュラム変更について

令和 9 年度 4 月からのカリキュラム変更を検討している。COVID19 を経て、学生の学習特性や学習技術、動機づけの変化や将来理学療法士に求める内容に合わせたカリキュラムや非常勤講師の変更を検討している。

教育内容		単位数（規定単位数）	理学療法学科（現行）
基礎分野	科学的思考の基盤		
	人間と生活	14	14
	社会の理解		
専門基礎分野	人体の構造	12	17
	疾病と障害	14	16
	保健医療福祉	4	4
専門分野	基礎理学療法	6	9
	理学療法管理学	2	2
	理学療法評価学	6	7
	理学療法治療学	20	24
	地域理学療法学	3	5
	臨床実習	20	24
合計		101	122

主な修正・変更予定案

- ・地域理学療法学の教育内容に専門職連携教育学として、都立青梅看護学校との IPE や青梅市新緑祭ボランティア活動を盛り込む。
- ・基礎分野の非常勤講師の変更など。
- ・その他。

池田委員：理学療学科は、学習内は質的な部分が求められる。基礎的な分野に対して早い段階から模擬試験やグループワークを実施して欲しい。国家試験合格率高い学校は、前途した内容を実践している。新入職員の特徴として、実習形態も受動的な学習スタイルとなっている。受動的な学習スタイルから、主体的な学習スタイルへ変更したカリキュラム編成を期待する。臨床のスタッフも協力をする。

鈴木委員：理学療学科は国家試験の合格率も高いので、基礎的な分野の学習が十分行っていると評価する。その上で、地域に貢献できるセラピストを育成してほしい。主体的な学習スタイルの確立と実技的なカリキュラムを多く取り入れてほしい。実技的な部分は、実習中に指導を行えればと考える。

佐藤学科長：早期から基礎知識を定着することは重要である。GPA が 2.0 を下回る学生は国家試験に難渋する。週末に確認試験の実施、上級生が下級生の勉強の面倒をみるといったグループワークをと入れている。また、現場のスタッフにも授業を実施してもらえれば、学生も実習に行った際に安心して実習を送ることができるのではないかと考える。

【言語聴覚学科】

①「愛玩動物の急変、追試験(公欠)か、再試験(欠席)か」について

現在一部企業で「愛玩動物有休」「愛玩動物忌引き休暇」と称し、愛玩動物に対する特別休暇制度が設立され始めている。設立意図として「しっかり生き物に気持ちを向けて、切り替えてから仕事に戻ってもらう」という新規的な価値観が出現しており、他企業でも導入が進んできている(日テレ報道 2024)。学校は企業と異なる立場や環境であるが、本科では愛玩動物の急変やそれに類似したケースが増加し始めており、対応に悩んだ時があった。本科としてはある程度の方向性は決まっているため、答えを見出したいことでなく、交流を含めて外部委員のご意見をいただきたい。

<本校履修細則>

第 4 条 2 項:追試験一試験に欠席したが、その欠席が特別の事情があると学院長が認めた者

第 4 条 3 項:通常行われる学力考査(本試験)における授業科目につき不合格であった者(本試験欠席のため 0 点とする)

赤松委員：質問となるが、愛玩動物の範囲はどこまでを考えているのか。

木村学科長：犬と猫と考えている。極論を言えばめだかなども含まれる。

赤松委員：範囲の設定が難しい。範囲を明確にする事が重要と考える。

浦島委員：過去勤務先で同様のケースがあったが、学生の気持ちを尊重して対応をした事例があった。介護職では、人間の生死を受け止めることが必須となる。愛玩動物の生死に関しても、1 つの経験として重要である。

失恋休暇を設ける企業もあるが、これは企業側のアピールである。学校教育と企業での就労は別である。

学校としては複数提示して選択をさせる対応で良いのではないかな。

木村学科長：各個人の価値観の問題である。学科としては、再試験対応で考えている。

【介護福祉学科】

①法人職員の非常勤講師依頼について

令和 8 年度より介護福祉学科の授業において、法人内メディケア梅の園から介護職員を非常勤講師または授業のファシリテーターとして派遣いただくことを検討している。実践的な演習授業において、現場経験豊富な介護職員の協力を得ることで、より充実した学びの機会を提供できると考えている。介護職員による直接指導を通じて、学生は実践的なスキルを習得し、介護現場の実際に即した知識を深めることができる。また、多様な背景を持つ学生に対し、現場の視点から丁寧なサポートを行うことで、理解の促進につながることを期待される。本提案は、より実践的かつ効果的な教育環境の構築を目指し、介護福祉人材の育成に貢献するものである。この取り組みを進めることで、介護職員と学生の交流が生まれ、将来的な就職や現場適応力の向上にもつながると考える。今後、関係機関と協議し、具体的な実施方法について検討を進めたい。

②介護福祉士国家試験制度改定について

令和 8 年度より導入される介護福祉士国家試験における「パート合格制度」、並びに養成施設卒業のみでの国家資格付与の廃止は、介護福祉教育機関に対し、従来の教育・運営モデルの抜本的な見直しを迫るものである。この度の制度改定は、加速する日本人学生の減少傾向に加え、今後の留学生募集に与える影響を鑑みても、極めて重要な経営課題として認識する必要がある。特に、国家試験不合格となった留学生に対する修学資金貸付制度の猶予期間 5 年間という条件は、本校の安定的な運営にも看過できないリスクをもたらすものであり、早急な対策が求められる。今後、具体的な対策を検討していきたい。

① 法人職員の非常勤講師依頼について

浦島委員：現場の職員に授業協力してもらう事は賛成。事前に学生の混乱を避けるために授業内容の打ち合わせが必須となる。

② 介護福祉士国家試験制度改定について

浦島委員：留学生だけでなく、日本人学生も読解力がネックになる。国家試験時間内で、試験問題内容を読解できるの能力が必要となる。読解力が低いと国家試験は難しくなる。

大堀委員：就学資金で進学した学生は、国家試験不合格でも 5 年実務で資格取得出来ているが今後どうなるのか。

鈴木学科長：現在審議中であるが、廃止の可能性が高い。5 年間で国家試験合格を目指す必要がある。特定技能 1 号として介護の仕事をしていれば猶予される。

大堀委員：国家試験に不合格となってしまう、就労せずに帰国をされてしまうと施設側としては困ってしまう。これまでの制度下では、帰国した留学生はいない。

3. その他

【言語聴覚学科】

言語聴覚士養成所カリキュラム改正に伴う変更承認申請:令和 7 年 7 月に申請予定

令和 7 年度臨床実習指導者講習会の開催日:

第 1 回:令和 7 年 7 月 5 日(土),6 日(日) 第 2 回:令和 7 年 11 月 29 日(土),30 日(日)

総評：

人見委員：様々な学生がいて大変であるが、18歳は成人となるので、ルールを提示してその中で行動をしてもらう事が重要となる。

池田委員：入学卒業に向けての取り組みが現場での質を確保する為に重要とされている。多様化などに対してどう向き合っていくか全学科の教員が協力してもらいたい。

鈴木委員：OT 学科の定員充足は最重要課題であるが、様々な学生を受け入れている中で、どのような対応・配慮が必要なのか検討をしてもらっている。現場としてもその様な学生を受け入れる体制づくりを整えていく必要がある。

赤松委員：多くの入学希望者を確保して入学に繋げていってもらいたい。しかし、多様な学生が入学してくるのが現実である。その際、個別対応は必要となるので、現時点で確立されているものと確立していないものを分類しておく必要があるのではないか。

浦島委員：日本人の入学者は、大人になり切れていない学生が多く見受けられる。自己表現が上手くない学生も多い。専門学校の授業以外で社会性などを学ぶことが多い。留学生は、自分で生活をしながら勉強も行っている。ベトナムで介護技術を教えに行くが、日本の介護技術は世界で評価されている。

大堀委員：4 学科で国試の合格率が違うが、入学時の学力に差があるのか。国試合格率の高い学科は人気あるので、入学時に選抜ができるのかと思った。介護学科の合格率も高いことも評価できる。

黒田委員：鈴木氏に質問。今年度の介護学科の入学者は半分以上が留学生である。今後、PT・OT・ST の学生も留学生が増える事を予測しているが、臨床では留学生の雇用を考えているのか。

鈴木委員：以前 ST で外国人の方を雇用していた。長く雇用できる人材であれば、雇用していきたい。言語的な部分で他のスタッフとのコミュニケーションで課題は残るので対応策も考える。